

本校は、平成16年11月に策定された「東京都特別支援教育推進計画」により、中学部・高等部の6年間を見通した教育課程を編成し、大学進学等を目指す中高一貫型ろう学校として平成18年4月に開校し、今年度創立19年目を迎えた。聴覚に障害のある生徒一人一人の実態に応じて、基本理念に基づく教育目標を達成するため、特色ある教育活動を展開し、確かな学力と社会性を身に付け、『希望する進路の実現に向け真摯に取り組む、自立を目指し社会に貢献する生徒を育成』する学校を目指す。

1 令和6年度の取組と自己評価

(1) 人権教育の推進

- 呼称（姓＋さん付け）を徹底により教職員の自覚と責任を促し、意識改善を行った。
- SC、SSW、新たな精神科医の三者の体制を調整し、生徒及び保護者がいつでも不安や悩みを相談できる体制を構築し、組織的な運営に向けた。
- 一部、SNSの利用に関し、生徒間で不適切な場面があり、定期的な指導を継続して徹底を図った。

(2) 学習指導の充実

- 学校評価アンケートの保護者および生徒から、平日の家庭学習について「やや不十分」と感じている割合が高かった。この点は継続課題である。教員による予習・復習への意識は高いが、週末課題の提示についてやや不十分であった。
- デジタルワイヤレス補聴援助システム（ロジャー）を導入し、使用の継続を行った。
- 学習支援アプリケーション等の活用における「スタディサプリ」の活用を図り、新たに「トクモ」の導入を検討し、研究の継続を図り、成果を報告した。しかしながら、家庭並びに教員にも十分浸透していない傾向がある。次年度高等部は「トクモ」を活用し、家庭学習の充実に向ける。
- 令和6年度全日本聾教育研究大会東京大会主管校として、研究主題「新しい時代の聴覚障害教育を考える～子供たちが豊かな人生を自ら切り拓くために～」を踏まえ、中学部では、「生徒自ら学びに向かい、考えを深める授業づくり」、高等部は、「自ら問いをたて、思考を深め説明する授業づくり」をテーマとして、研究成果を発表した。
- 学校運営連絡協議会のアンケートにおける学習評価
 - ・興味・関心が持てる授業の工夫の項目 生徒 92% (R5)→93% (R6) 保護者 83% (R5)→80% (R6)
 - ・授業内容の理解について肯定的な評価 生徒 90% (R5)→93% (R6) 保護者 79% (R5)→69% (R6)
 - ・学校生活の満足度 生徒 86% (R5)→80% (R6) 保護者 86% (R5)→78% (R6)学校としては改善すべきことがあると考える。

(3) 進路指導・キャリア教育の充実

- 組織的・系統的な指導を目指すために「進路指導の手引き」等の活用を図った。
- 高等部3年生の進路決定 95% (19/20名)

国公立大学3名 私立大学14名 専攻科2名合格 未定1名

(4) 安全教育の充実

- 都教委報告事故案件は1件。
生徒の実態に応じた丁寧な指導を組織的に継続して行う。

(5) 健康づくり

- 国内及び海外デフリンピアン選手と本校及び交流中学校の生徒や地域自治会とともに、デフリンピック教育講演会及び交流会を実施し、理解啓発を図ることができた。その他教育委員会と連携した聴覚障害啓発事業を実施した。

(6) 聴覚障害のセンター的機能

○広報活動を充実させ、本校の教育活動の理解推進に取り組んだが、十分ではない面があった。

入学者選考において、前期中学部 2.5 倍、後期中学部 1.25 倍、前・後期高等部 0.92 倍であった。

(7) 組織的な学校運営

○ライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、教職員の業務改善アンケートを実施、ペーパーレス化、会議等の精選・効率化、教職員の在校時間の縮減について取り組み、教職員の意識改善に向けた。

(8) 行政系の組織目標

○適正な業務遂行を重点に業務遂行した。

2 重点目標への取組と自己評価

(1) 人権を尊重した教育の推進		
ア いじめの未然防止、自殺予防等に関わる校内職員研修の実施	年 2 回	B
イ 生徒への呼称(姓+さん)の徹底、教職員の言葉掛け、服装等の身だしなみの改善	全教職員	B
(2) 学習指導		
ア デジタルワイヤレス補聴援助システム(ロジャー)活用	通年	B
イ 朝学習、自学自習(サポートスタディ)の計画的な実施	通年	B
ウ 夏季休業中の補講の実施	中学部・高等部 9 日間	A
エ 英語検定、漢字検定、情報処理検定の受検促進	通年	A
オ 全教員による研究授業実施	一人 1 回以上	B
カ 令和 6 年度全日本聾教育研究大会(東京大会)に向け校内研究会の活性化	年間 3 回以上	A
キ 生徒の授業評価実施	年 2 回 肯定的な評価割合 90%以上	B
(3) 進路指導		
ア 職場体験、キャリア講演会、先輩の話を聞く会実施 大学生交流会・講演会	年 2 回以上	A
イ 学習支援アプリケーションを活用した進学指導の実施	通年	B
ウ 中学部、高等部卒業学年生徒の進路実現	97%	B
(4) 生活指導		
ア 個別のニーズに対応したケース会議の実施	随時 通年	A
イ SNS 中央ルール指導の徹底及び SNS の利用に係る 5 年生と 1 年生の交流授業実施	年 1 回	B
ウ 登下校のマナー等、社会におけるルール指導の徹底(近隣住民からの苦情ゼロ)	通年	B
(5) 特別活動		
ア 近隣における奉仕活動実施	天候により 1 回実施	C
イ 年間の交流及び共同学習(部活合同練習、生徒会交流、他障害など)	年 10 回以上	A
ウ 図書委員会及び生徒会による読書発表会開催	各学部年 1 回	A
(6) 健康・安全		
ア 生徒の安全確保及び安全指導日における教室等環境整備チェック	事故 0 件及び月 1 回点検	B
イ 「給食一口メモ」による食育指導実施	通年	A
ウ 産婦人科医による教員研修会の実施	年 1 回	A
エ スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等の活用したカウンセリングの充実	通年	A
オ セーフティ教室の実施	年 1 回	A
カ 3、4 年生による 1 泊 2 日宿泊防災訓練を実施	年 1 回	A
キ 職員検診受診率	98%	B
(7) 特別支援教育のセンター的機能		
ア ホームページの更新	64 回	B
イ 中学校等への聴覚障害に関する出前授業(理解啓発授業)実施	年間を通じて随時	B
ウ 学校公開、オープンキャンパスの実施	外部見学者年間 280 名参加	A
エ 小学校や中学校の各区市のコーディネーター研修会や難聴学級設置校訪問	20 回以上	B

オ 入学者選考受験者	中学部 21 名、高等部 22 名	C
(8) 学校経営・組織体制		
ア 経営会議	年間を通して実施	A
イ 四級職連絡会	年間を通して実施	B
ウ ライフワークバランスを重視し、リフレッシュ退勤 DAY (RTD) の設定	年間を通して実施	B
エ サービスの厳正、個人情報の保護等に関する研修会の実施	年間 3 回	B
オ 適正な学校予算の執行	年間を通して実施 一般需用費センター契約率 52%	B
カ 環境整備委託業者との定例連絡会	毎月実施	B

A : 100%達成できた B : ほぼ達成できた C : 十分達成できなかった D : ほとんど達成できなかった

3 次年度以降の課題と対応策

- 人権を尊重した教育については、全教職員の自覚と責任を促し意識改善を行い、生徒の実態に応じた指導を引き続き行う。
- 入学者の募集対策強化をすることが必要であり、引き続きホームページ等の情報発信の工夫を図る。
- 聴覚障害教育に関する専門性の維持向上に向けた取組みや、各教科における授業の充実に向けた取り組みを組織的に行う。
- 「進路指導ガイド」の活用をとおして、中高一貫した進路指導及びキャリア教育の充実を図るために、組織的・系統的な指導の充実を目指す。
- デフリンピックに向けた取組みを契機として、聴覚障害教育の理解啓発に向けた体験的な取組を実施した。次年度も引き続き行う。
- 働き方改革に向け、業務改善アンケートを実施した結果、会議等の精選・効率化等を図った。引き続き、改善できる事項を検討し教職員がストレスを軽減し、十分にコミュニケーションが図られる職場環境を整える。
- 校内
ヒヤリハットの事例を活用し、常に安全な教育活動が展開できるよう生活指導部及び学部で情報共有しながら連携を図っていく。